

# 世界一の親日国。パラオから見ると、日本の外交が目指すべき道

樋口 陽之  
（しがく総合研究所）

東京から南に3,000 km。そこには世界一の親日国とも言われるパラオ共和国がある。パラオの属する西太平洋地域は、日本の外交戦略にとって非常に重要な場所だ。とある機会でパラオを訪れた筆者の見聞も踏まえ、日本の外交が目指すべき道を考える。

## トクベツな関係にあるパラオと日本

世界で唯一、公用語を日本語とする国。それ

民地支配を行っていたスペインやドイツがパラオ人を搾取し虐殺もした歴史がある一方で、日本人はパラオの人々を仲間として扱った。学校を建設してパラオ人も日本人と一緒に学び、道路や病院などのインフラ整備を行なったのだ。

そして、大東亜戦争で激戦地となったペリリ



ペリリュウ島で出迎える日本語の看板と筆者

ユー島では、日本兵約1万人がほぼ全滅したのに対し、パラオ人の死者は0人。背景には、家族同様の日本兵と一緒に戦いたいのとのパラオ人の声を振り切り、全島民を避難さ

がパラオ共和国だ。日本語を話すことが当たり前の日本では、特別に公用語を定めていない一方で、パラオのアンガウル州では憲法で日本語を公用語と定めている。「オメデトウ」、「ダイジヨウブ」、「トクベツ」など、なんとパラオ語の約1/4は日本語由来の言葉で構成される。

第一次世界大戦後1919年から26年間に渡り、国際連盟の委託を受けて日本が統治したことがパラオと日本の繋がり始まりだ。日本統治前に植

せた日本人の行動があった。

パラオにはこのようなエピソードが多く残されており、戦後50年のアメリカ統治を経てもなお、パラオの日本への想いは現代まで紡がれている。1994年にはパラオ共和国独立記念式典でパラオ国歌が斉唱された後、日本国歌の君が代が歌われた。そして、独立に際して国民投票で選ばれた国旗は日本の日章旗に似た月章旗。諸説はあるものの、パラオと日本の歴史的繋がりを鑑みると、「太陽である日本が照らしてくるから月であるパラオは輝く」というパラオ人の想いが感じられる。

## パラオを訪れて気がついた危機

2023年10月、私はパラオを訪れる機会に恵まれた。パラオに到着すると日本が建設を手掛けたパラオ国際空港がお迎えしてくれる。同じく

日本が建設をした「日本・パラオ友好の橋」を渡り、空港のあるバベルダオブ島から滞在の拠点となる繁華街のあるコロル島へ向かった。

滞在中に在パラオ日本大使と交流の機会をいただき、パラオと日本の未来について話す中で、中国の戦略に苦しむパラオの実態と日本に寄せる期待を知ることになる。データを見ると、2010年以前は年間1,000人にも満たなかった中国人観光客が2010年以降急激に増加し、2017年には12万人を超えた。

この急激な増加の背景には、パラオに台湾との断交を迫り中国と国交を結ばせようという中国政府の思惑が透けて見える。パラオは、いまや12か国しか残っていない台湾の外交同盟国の1つである。増加する中国人観光客受け入れのために、中国人向けのホテルやレストランの建設が次々と進む中、2017年に突然、中国と

昨年福島原発の処理水放出が計画された際、中国を筆頭に、近年中国との関係性が強まっている太平洋諸島の国々から、漁場汚染の懸念を主な理由に反対の声が多く上がった。そのような中、外国の国家元首として初めてパラオの大統領が福島原発を訪れた上で岸田首相と会談を行い、処理水放出の安全性を世界に向けて発信した。太平洋諸島の一国であるパラオが安全性を主張した意義は大きく、世界的な評価の転換に大きな影響を与えてくれた。

パラオは大国ではないが、一国としての発言力を持っている。日本の外交を考える上で、大國だけではなくパラオのような親日国は非常に大事な存在なのだ。

また、パラオは地政学上日本にとって非常に重要な地域でもある。大東亜戦争中、日本はパラオに南洋諸島を統治する拠点として南洋庁を

国交を結ばないパラオは違法な旅行先であるとして中国政府が主張し始めたのだ。その影響で中国からパラオ行き直行便が廃止され、2010年以降右肩上がりだったパラオのGDPが2017年に3・4%のマイナス成長に転じた。GDPの7割近くを観光業が占めるパラオに対し、強い圧力がかかったことは言うまでもない。

台湾との国交維持を望むパラオは、中国からの観光客復活ではなく、歴史的に深い繋がりを持つ日本からの観光客増加や資本流入に期待を寄せている。

### 親日国は強力な外交パートナーでもある

中国の圧力が高まる今こそ、日本がパラオの期待に応えていくべきだ。これは何も、歴史的な繋がりを尊重したただの感情論というわけではなく、現実的な外交としても非常に重要な話だ。

設置した。西太平洋地域の要衝であるパラオがどの国と国交を結ぶかは、日本の安全保障を考える上でも非常に重要な話である。

中国がパラオに圧力をかける情勢を受け、今年の2月に台湾は、パラオと引き続き連携、協力し、インド太平洋地域の平和と安定、繁栄を共に促進していく立場を示した。中国の圧力がある中このような立場を表明するのには、日本、パラオ、台湾の歴史的繋がりが背景にある。もし日本がこれらの親日国を蔑ろにしたら、太平洋地域の安定に亀裂が入る可能性も大いにあるわけだ。

今年、パラオと日本は国交樹立から30周年を迎える。国と国の繋がりの根幹にあるのは、国民と国民の繋がりにある。パラオと日本の歴史に想いを馳せ、今後もパラオとの関係を深めることが日本の外交の目指すべき道である。

